

私の履歴書

釜本 邦茂

②

年から42年まで兵役でロシア、モンゴルとの国境に近い中国の海拉爾に赴き、陸軍中尉で除隊した。

二人の兄とまだ幼い姉・美

リーマンになった。折に触れ「弁護士夫人になるはずだったのにダメされたわ」とこぼしていた母は2003年に、父は翌年に亡くなった。

要は自分の流派を立てるくらいのもりで己に厳しく技を磨けということやな。そう解した私は電車の中ではつま先立ち、新宿の歌舞伎町を歩けば行き交う人との間合いを測りながら、かわす練習に努めた。部屋に入ると、机や椅子や置物などの配置を瞬時に認知するのが習慣になった。腹筋や背筋を鍛えるには、パンツ一丁と下宿の畳1畳分の広さがある

現役時代、私の身長は公称179センチだった。本当は181センチあったが、体の大きなやつは鈍くさいとみなす風潮があったので過少申告を繰り返すうちに、数字の小さい方が定着したのだった。

真偽は定かでないが、女学校で陸上をしていた母は、兄弟の四番目。下に妹の利恵

探究心と俊足 親譲り

電車・人混み：どこでも練習

恵まれた体に恵まれた体は奈良県出身の両親から受け継いだものだ。父の正作は橿原市の大和三山の一つ、耳成山の麓近くで、母よしこは桜井市の三輪山の近くで生まれた。釜本家と母の実家の森家は親戚同士。森家は地主だったが、農業を嫌った母は近郷で暮らすいとこの父が弁護士志望だと知り、持参金を携えて嫁いだという。1909年生まれ



晩年の両親

子や置物などの配置を瞬時に認知するのが習慣になった。腹筋や背筋を鍛えるには、パンツ一丁と下宿の畳1畳分の広さがある

の正作は橿原市の大和三山の一つ、耳成山の麓近くで、母よしこは桜井市の三輪山の近くで生まれた。釜本家と母の実家の森家は親戚同士。森家は地主だったが、農業を嫌った母は近郷で暮らすいとこの父が弁護士志望だと知り、持参金を携えて嫁いだという。1909年生まれ

女学校には着物で通いながら、両足をさらして陸上をするくらいだから相当におてんばな娘だったようだ。

母は母で「邦茂はお産は控

に「一番下の手紙と一番上の新しい手紙を読んでみ。時候の挨拶以外、内容は一緒や」と仲間を笑わせたものだ。手紙には剣の道もサッカーも究極は1対1の闘いだから必勝の形をつくらないといけない、そのために宮本武蔵や千葉周作たち剣豪はこんなことをした、みたいなことが繰

34年に父は京都で警察官になった。関西大学で勉強を続けたが弁護士の夢は断念。38

戦後、父は三菱造船でサラ

（日本サッカー協会顧問）